



第 1 回 SGH 講演会の報告です。

◇ 第 1 回 SGH 講演会 日本における難民支援 羽田野真帆氏 6 月 25 日 (火)

1、2 年生を対象に SGH 講演会が行われました。今回は特定非営利活動団体名古屋難民支援室から羽田野真帆氏にお越しいただきました。

日本にも難民がいること、日本で難民認定を受けるには非常に長い時間がかかり、大変な苦労があることをご自身が難民を支援された経験もとにわかりやすくお話しいただきました、また、難民に対してどのような支援を行っているかということについても説明していただきました。

講演後には、羽田野氏を囲んでの座談会が行われました。座談会に参加したメンバーからだけでなく、全校生徒からも積極的に質問が投げかけられ、充実した時間となりました。



生徒の感想

◇難民の方は国から命からがら逃げてきたのに申請が認められず、収容される可能性もあるという厳しい状況に何年もおかれるなんて辛すぎると思いました。だからといって難民を今すぐ全員受け入れて援助していくだけの力が日本にないこともわかるので、本当に難しい問題だと思います。そんな中で一人ひとりに手を差し伸べる羽田野さんはこの人たちを助けたいという信念を持っていて、強い人だと思います。私に今すぐ何かできることがあるわけではないけど、そういう人たちのことをきちんと知っていきたいと思います。

◇難民支援を通して、「生きる活力をもらえる」という言葉を聞いて、物事に対して常に自分が新鮮な気持ちで臨むことの大切さ、互いを尊重し合うことの大切さを感じた。ウガンダの女性の話を聞いて、もっと考えることをしたいと思った。

- ◇自分が住んでいる美濃加茂市も外国人の割合が多くて、身の回りにも外国人の方がたくさんいます。その中でも難民で苦しんでいる人がいるかもしれないと思うと、自分の無力さを痛感させられました。そして最後の「教育を受けているのだから自分の頭で考えて」という言葉が衝撃的でした。この言葉には、教育を受けられていることの感謝や自分以外の方が苦しまないようにしてほしいという願いや希望も込められていると思いました。自分にできることは限られているけれど、自分にできる最高のことをSGHなどで行っていききたいです。
- ◇今回の講演を聞いて、日本での難民問題がどれだけ深刻か学びました。以前ニュースでアメリカでの難民受け入れについてのニュースを見て、ひどいと思ったけどそれより日本の方が大変だとはじめて知りました。今の私は羽田野さんのように自分で行動を起こすまでの知識はまだまだ足りないけど、今活動している団体に賛同して参加することはできるので、積極的に探していきたいと思います。
- ◇日本はどうして日本の利益を求めてしか外国人を受け入れようと思わないんだろうと思いました。小学校から道徳などで学んできているのに、結局利益不利益で考えてしまうのは悲しい話だと思います。実際、その観点で考えたとしても、世界にとっては利益が多いと思うので、こういう問題はもっと国民全員で考えて、もっと議論していく必要があると感じた。
- ◇「難民」と聞くとアフリカや戦争のある地域にしかいないと思っていたけど、日本にも、名古屋にもいると知って驚いた。自分が直接難民の人に何ができるか即座に思いつかないけど、今回の話を聞いて理解を深めることはできるので、理解していきたいと思います。
- ◇難民の方は精神的にも余裕がなくとてもつらい思いをしていると思うので、私たち日本人がもっと難民に寄り添って支援できるようにどんな立場の人でも思いやりの心を持って接することから始めたい。
- ◇難民問題についてたくさんを知れた。これから自分に何ができるかを考えて、これからのSGH活動に取り組んできたい。
- ◇難民問題は世界全体で取り組むべき問題なのに、日本を含め以前は何かしらの理由をつけて逃げているような気がした。パスポートがない、ビザが期限切れなど小さいことにこだわるのではなく、一番つらいのはその人自身だから「助けるという気持ち」が大事だと思った。難民として認められるまでに長い年月がかかるという状況をどうにかすべきだと思う。
- ◇羽田野さんがおっしゃっていたように、大変だけで終わらすのではなく、自分の国や渡ってきた国でさえ安心できる地がない人たちに何ができるか考えたり、もし関わることがあったなら詳しく話を聞いたり、助けようとしている人がいることを伝えられるようにしたいと思った。
- ◇今回の講演会を聞くまで日本に難民の方がいることを知りませんでした。また難民の方の大学入学を手助けする特別入学枠があったりするなどということを知り、今回の講演会を機に知ることができました。難民の方の中に貧しい思いしている方も少なくなく、さらに友人や家族などを目の前で亡くなってしまったなどのつらい過去を背負っている方もいることを知り、自分の中の「難民」のイメージが変わりました。
- ◇私は難民と聞くと、メキシコの人たちがアメリカに行くようなイメージであまり関心がありませんでした。でも今日の講演を聞いて見方が変わりました。今日の話にあったウガンダの女性はとても強くて立派な人なのに、政府による行動で彼女の心を奪ってしまいました。日本にも難民を受け入れられない理由があると思うけれど、ウガンダで今までひどい被害にあっていた人に難民認定するまでに8年以上という長い年月をかけてはいけないと思います。政府にはもう少し「難民」の捉え方を変えてほしいです。
- ◇普通の人とまぎれているけれどつらい生活をしている人がいると思うと、これはもっとみんなが知るべき事実だと思います。難民に対してマイナスイメージをもっている人も少なくないと思うので、もっと理解を深める必要があると思います。
- ◇今まで「難民の人」と風にかけていたけれど、一人ひとりに個性があり、まとまりとしてみるのではなく、人として見られるようになりたいと思いました。